

よりよい日本のために

徳島市応神中学校3年 齋藤 美心

「虫歯と詰物の治療二本で、合計九万四五〇〇円?!」

これは芸能人のたむらけんじさんが、アメリカで支払った歯の治療費だ。私はこのニュースを見てとても驚いた。母親に日本だとどのくらいかかるのか聞いてみた。「治療内容にもよるけど、だいたい五〇〇〇円くらいかな」と言っていた。アメリカと日本とでは、どうしてこんなにも違うのかと疑問に感じ、調べてみることにした。

日本には、アメリカにはない国民健康保険制度というのがあり、日本国民は国民健康保険税を支払う義務があることを知った。私の家の場合、一年間の収入や家族構成などに応じて、市町村で決められた算定方法で国民健康保険税の金額が決める。そして、その金額の税金を納めることにより、国民健康保険に加入したことになり、三割の自己負担で医療を受けられ、残りの七割分は保険でまかなわれるということだ。だから同じ歯の治療でも、アメリカと日本とではこんなにも大きな差が発生することがわかった。

私の家は農家だ。毎年七月頃市役所から国民健康保険納税通知書が送られてくる。それを確認する父は、毎年その金額に驚き、そして落胆している。その姿を見る私は子どもなりに「どうして毎年そんなお金を支払わないといけないんだろう」と疑問に思っていた。しかし、たむらけんじさんの一件で、父が毎年納めている税金がどのように使われて、そしてその恩恵を私自身も身近に受けていることを知り、納税の大切さを実感した。

コロナが流行してから、私は二度コロナになった。その時の検査や薬の処方、支援物質の提供も全て税金により無償で行われたことにとても感謝している。同じ頃、アメリカでは毎日大勢の人がコロナで亡くなっているとニュースで報じられているのを見た。そこには、こうした健康保険の有無が大きく関わっていると思う。日本では、電話ひとつで救急車が無償で出動してくれる。有料のアメリカでは、救急車を呼ぶのを諦めた人がいたかもしれない。高額の治療費のために診てもらえない人がいたかもしれない。そう思うと、日本は本当に恵まれていると思う。

私の日々の生活の中で、税金による恩恵をたくさん受けていることを改めて知った。通学途中、自転車をこぐ足に当たって痛い道路脇の草はきれいに刈り取られている。教室に設置されたエアコンのおかげで、猛暑の中でも快適に授業が受けられる。私はまだ中学生なので、消費税くらいしか納められないが、自分が納めた税金が誰かの生活に役立てられていると思うとうれしくなる。「なんで払わなくてはいけないの」とは、もう考えなくなった。

私の住む日本がよりよい国であるために、しっかり納税していこうと思う。